

沖縄離島の認知度と旅行者数
(上位15島) 回答者数：計975人

	島名	認知者数	認知度	旅行者数
1	石垣島	814	83.5%	148
2	宮古島	741	76.0%	75
3	西表島	675	69.2%	80
4	与那国島	529	54.3%	13
5	久米島	528	54.2%	36
6	竹富島	482	49.4%	101
7	波照間島	325	33.3%	19
8	南大東島	277	28.4%	4
9	渡嘉敷島	246	25.2%	15
10	座間味島	187	19.2%	20
11	北大東島	138	14.2%	3
12	小浜島	130	13.3%	29
13	多良間島	130	13.3%	8
14	伊江島	118	12.1%	19
15	由布島	97	9.9%	36

※宮古島と架橋で接続する池間島、来間島、伊良部島、下地島は「宮古島」の単一選択用いる

離島未体験でも 「関心」76%

県外者、高い潜在需要

沖縄公庫調査

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は17日、「沖縄の離島観光に関する意識調査」を発表した。過去3年以内に国内旅行をした県外居住者975人のうち、沖縄を旅行したのは57・3%の559人、沖縄の離島を旅行したのは19・5%の191人だった。離島旅行未経験者784人のうち「離島旅行に関心あり」は75・8%の595人で潜在需要は高かった。公庫の離

島観光実態調査は初めて。

沖縄本島と架橋などで接続していない有人離島35島の認知度では、最多が石垣島の83・5%。宮古島（池間、来間、伊良部、下地の4島含む）76・0%、西表島69・2%と続いた。6割を占める21離島の認知度は1割未満しかなかった。

与那国島は54・3%の529人が認知するが、旅行経験者は13人だった。久米島や波照間島、南大東島など認知度は高いが旅行者は少ない離島も多かった。公庫調査課の山内昌也上席調査役は「認知度に大きな偏りがある。多面的な情報発信が課題だ」と話した。

離島旅行の阻害要因については「費用が高い」が31・2%、「移動時間が長い」が25・0%、「交通が不便」が23・2%の順。離島旅行経験者191人の消費単価は「5万～7万円未満」が28・8%で最多。年齢別では60代以上の消費単価は7万

円以上が54・2%だった。調査は1月27～29日に20～79歳の県外居住者を主な対象にウェブサイト上で行った。

平成29年3月18日
提供：琉球新報社

無断での転用・複写等を禁じます

離島旅行 6割「関心」

県外観光客に
沖縄公庫調査 知名度に隔たり

沖縄振興開発金融公庫（川上 好久理事長）が17日公表した「沖縄の離島観光に関する意識調査」の結果によると、約6割が離島旅行に関心を示す一方、認知度は一部の離島に集中し、知名度に大きな隔たりがあることが浮き彫りに

沖縄旅行・離島旅行の有無 上段：回答者数 下段：構成比

	全 体	離島旅行の経験者	離島旅行の未経験者	離島旅行に関心あり	離島旅行に関心なし
全 体	975人 100.0%	191人 19.6%	784人 80.4%	595人 61.0%	189人 19.4%
沖縄旅行の経験者	559人 100.0%	191人 34.2%	368人 65.8%	317人 56.7%	51人 9.1%
沖縄旅行の未経験者	416人 100.0%	—	416人 100.0%	278人 66.8%	138人 33.2%

なった。同公庫では離島の活性化には観光による交流人口の増加が大きいと指摘。メディア活用による認知度アップ、長期宿泊で消費額が大きい60代以上のシニア層向けの情報発信を強化する必要性を提案している。

調査は今年1月27～29日、全国の20～79歳の男女を対象にインターネットで実施。回答した千人のうち、過去3年以内に国内旅行した975人を対象に離島への関心度や認知度を分析。同公庫が離島観光をテーマに調査したのは初めて。

離島旅行の未経験者784人のうち、離島旅行に「関心がある」と答えたのは595人、「関心がない」は189人だった。

離島の認知度は石垣島（83・5％）が最も高く、宮古島（76％）、西表島（69・2％）

と続く。15位の由布島（9・9％）から35位の外離島（1・3％）まで全体の6割が認知度10％を下回った。実際に離島を訪れた離島旅行経験者（191人）の訪問先は石垣島（77・5％）、竹富島（52・9％）、西表島（41・9％）の順。経験者の世代

別の分析では、20代の若年層と60代以上のシニア層で対照的な結果が出た。

若者層の旅行日程は2泊3日以内が56％、旅行単価は7万円未満が76％で最多だったのに対し、60代以上は3泊4日以上が72・3％、7万円以上が54・2％で最も多かった。沖縄観光のトップシーンにあたる夏季（7～8月）に20～40代の人が集中したのに対し、60代以上は6・9％と1割に満たず、時期が分散化する傾向がみられた。

平成29年3月18日
提供：沖縄タイムス社
無断での転用・複写等を禁じます